



畧譜
心

平松 平塚 平賀 平袋

平山 平田 平井

二百十一冊

内閣文庫			
原	文	關	内
二五六面	二二一	三六〇八八	和書
架	冊	號	類
四九一			



内閣文庫		
番號	和	36088
冊數	211(194)	
函號	156	17

共六

151
374

記録御用所

平岩



校了

信光君清代

平岩

高子二百名

物部姓

家茂丸内張弓
丸内張弓
丸内張弓



物部大連弓削大直守屋後胤二別
額田郡坂崎村住人平岩集人正
氏貞よりして弓削を改まらばと稱し
其子孫後と奉えりて存すま
た系と光君とを

重益

大原右衛門

和元次

文治年中

信光君之御孫也

親忠君

長親君之御孫也

大永三年

信忠君大原清原君の御孫也
坂崎守之助君の御孫也
大永三年一月日
死

親昌

は親言 大永三年

長親君

信忠君

大原村 和合八郎 新右衛門

法康君の事は二別冊の位に
天長九年八月十一日死に別冊
妙心寺に葬

親基

長原師

某

妙心寺

親弘

妙心寺

親右

源氏

源氏と称す

廣忠君の事は天長十六年

東照宮後刻今川家より源氏の位を承
継二年大正の城を継入の時親右と
おし落し候事

并の

めくれず

法康親王は三別当の位に

天長九年八月十一日死に別当津

妙心寺に葬

親基

長原師

某

物部

親弘

少平

親古

源氏

源氏と称す

廣忠君は天長十六年

東照宮後刻今川家より源氏の位を承

継ぎ承大なる城を継入の時親古と

号す 同元年少坂井の

合戦も欲兵競と移心之月給大抵
拒所親古軍兵と引率し其裁
い欲と辭之職中又の同年之例
一向宗之按親古出味言とありし
又五巻云ふ軍力と加の同年
十二月計議の定案と和同親
親古有免助多又山重と按親山重又
とあり親古の年と許の例とあり
山重とあり親古の首とありとあり

東照官許決りて急い出るは地とあり
親古と有赦いゆ多又とあり山重とあり
い思退とありの同七年七月計議
野寺のまゝとあり和同親古の隔
是時と後いし誠と同とあり山重とあり
許ありあり親古とありに年八人住
すといふ進条しけり一候のまゝ
親古の同七年今川家政らるは
山重とありとありとあり

親吉三陣列列七の同十二年六月廿

二日

東照宮軍士と一平とを別掛川城にお
りしを河親吉と信いしもの之を奪之
本年六月婿川合戦の酒井忠次と
先鋒ありの同二年十二月味方系
より伊予の天正元年一月十六日作と
家老とを別掛川城に攻め
親吉子系勝と一平と守り之野

陣山定親と南條の田と夫方
山城と通徳防戦すものも敗走
久所定定一平列八通と云ふ山城
通徳は勝れしと云ふ二年二月と云ふ
平貞徳石根の通と云ふ武田の通
と繫退けしと云ふと云ふ
退く世時伊予と云ふ松平伊忠
少多廣孝と云ふ

あはれと接し井原より送る親書に
同七年九月信康天祐の御書
信長より

東照文の遺言の時に親類は年々信康
の傳はれりし首と判らば信長
を以て信康天祐の衆と候ふべし我
天の命に死す悔ふ事なき事
とす其忠誠と洋威思ふ事
に於て九月十八日二保城の事

信康天祐の御書に
儼然とすははと止り御書と御
と云ふ御書に信長と又おははと
信康天祐の御書に人言と親書と
りるの同八年八月日信利田中
外も書と悉く判りぬ事と取らば
時持丹の城より物比奈諸河も信康
臨と慕ふ志目の悔りも御書と親
書と親書と御書に信軍の事余

討死朝臣宗盛故地と○同年十月
ら美津山出るの時親吉位年○同十
年八月廿八日宗氏直軍と甲別
かきし時親吉後助す同七日を
令と蒙り依えと受け親七人槍
殺同年十二月廿一日親吉甲別
身復しとてを方とて石と飲回
十年七月
宗盛等二の姫美と山宗氏直一入

薬の時諸中庵後一山宗とて
相田尾法伊勢使中一山宗とて
○同年八月位依久部の子孫依
て甲位あるまをひく時なる
甚し播ら折く親吉名を在之
等也此位一彼位と切く攻め
○同十二年法松一織田信雄より
多し清人討軍とて山宗と親吉
え忠を為守とせしと○同年年尾

召喚人等公親は親者甲別を
東園と壁と○同年二月六日
大久保右衛門親将帥より甲別
士惣軍七子山田城を致令す
作とある○同年五月十日
ち昌幸任別も親者右衛
忠大久保右衛門親将帥と
忠世親者右衛門親将帥と
といふも御尋りして後よ致す

けは武田の家は今福澤田の一族
今福来武田滅亡の後甲別は幽
居せしやとす○信常とと親者
賺しく相乗店と相く殺害し
絵仕扈從は武田治路とあり○同年
十二月朔日武田信玄國法軍旅使
之の書籍は久しに甲別の守
護するも親者も事ごとく命を

らるる關中・福・武田家の書藉と
缺を○天正甲寅年十月津上居津
佐定と幸道渡甲信又○國の惣軍器
子のうち二百少は津上居津の依
なると命をいふ多居るを親者と甲
信又○石川家藏大久保忠世と
津上の四河も○大久保忠世の子
余兵と附屬一井伊直政と○人
附屬と○定○同十六年一月十

八日從五位下に叙爵し○天正改元稱
○同甲午年小田原公藏の時親者一の
○甲午使と○の同列と親者組甲
別先方元重親を○武川元信を
元晴を○おたり○同甲午四月甲午
赤松長清長俊の同族と○を
關東と法城の親と○
東照文より○多志信淵井家久を○
えお及親者等令と○

終○同年^{正月}令^りより^りく^りか^り多^し力^を信^ず
居^る之^を親^者と^す余^は兵^部右^{兵衛}左^{衛門}守^り
上^任と^す法^の方^に働^き半^六初^の城^と
陪^を○同^年二^月廿^二日^武別^名檜^城
と^改る^親者^新部^にむ^じふ^親者^を
即^ち一^康長^を丸^とふ^今令^り給^ふ因^り
哉^死名^を居^る之^を親^者と^す同^時小^澤左^{衛門}
掾^とふ^今も^り給^ふ是^を親^戚と^す所^を家^と
人^十中^人哉^死を^敬す^一年^七級^均と^り

親^者又^は親^戚と^す後^す亦^を古^の
居^る年^定か^ら多^る勤^切と^す若^くて^威
状^を一^腰と^す
東^照文^{より}中^多名^を兵^部右^{兵衛}左^{衛門}守^り哉^死
と^りる^時小^澤左^{衛門}守^りと^す
是^を所^領か^ら認^り令^り令^り紀^伊と^す
是^を所^領の^時當^城と^す鴻^巣と^す
小^澤左^{衛門}守^りと^す親^者と^す百^人持^持と^す
終^く○同^年八^月親^者と^す利^原信^房

城守の子孫の遺徳の遺蹟を世に傳
東照文系大徳は清隆のちり并侍多
酒井柳系石川平定交代しつて京
下へ文禄元年秀吉朝鮮征伐の時
親吉の家に入ると多分揚子江の屬
より清海より同一年親吉を名古
屋（信長）の同年四月廿九日秀吉
掃部有らぬ遺徳を以ての府親吉の
侍よりあるの同一年に官給交代

清隆の母は清隆の父の室清隆の母
親吉嗣子ありては親吉より
清隆の母は清隆の父の室清隆の母
母の母は清隆の父の室清隆の母
年二月七日親吉長子信成代官
大徳のちり并侍多
華定林陽の大徳を以ては
上野國既橋孤雲のちり并侍多
守心善寺の親吉熱傳清隆の母

後平尾別より寺と建く物名正
なる無院と号しこの同年國々各
我の以て親古厩移城と云く上秋
業勝と壓

名徳院殿と田所御陣の既移り
軍兵ありて陸後

東照宮より東河勝利より家後院
本武蔵守と云く筑し寺と壓と親古

名徳院殿の既ありて上京と

大坂初九日 嗣美の事

秀忠君秀康君おのちちりり
まふ松をせりてやと大之保陰
丹伊お多村系平忠た今保お多
戸法と申おふりてりせりせり
名もねとのふ忠徳おの河ははらせ

流し

秀忠君と河継嗣と移せりて
河渡りりの同日一年武田家の田

臣甲別巨磨郡武川の壬午申人と
親古祖と命とらるる〇同六年二月
有初の徳將と皇嘗の所親古と別と
轉々甲府申城六百と石
幼りる同年命とけく親古家
従父と義利と親古同七年又
十二人と附らるる同八年二月廿八日
甲斐國と義利と親古子孫を九のり
屋徳義親古とらるる
最に徳義親古とらるる甲別に

移りせりふと親古と別と徳義
親古と親古と命と親古と
は親古の所附父とらるる之の如く甲府
城とらるる〇同十年

名徳後敏沖と活親古と信古と祖とは
少室系信濃と長備信別信田信清周
城と保科正俊同國を
城と
名徳古と信古と成次甲別信村なり〇同

本年四月廿一日

右使院殿將軍 宣下有書云云

内親王海島より行別と勅し〇同十

二年三月廿六日右大臣海島行

天親古之嗣天孫也其後甲斐國

と領せしはる清見忠古天孫臣

尾別(封)する親古の清見又あるふ

う甲府と轉尾別を山陰十言

二子石と稱義武天孫初年の有

清見城をまゝ國政と執りて

任と家一之親古の清見と云ふ

亦海島と清見とを山城と云ふ

土之親古は義直の孫と云ふ

意ありてその日又年名護を城と

築りて清見と親古の家後と云

後古と長政の位と國許と云ふ

死ししはる名護を城と云ふ

義直天孫の清見古の二子と云

と本末の年を掃却して死すと
守しむ白文二十二年親吉の病 月朔親吉
病危等のよりしりる

白徳院殿より阿倍宗元宗元宗元宗元
とく病身身身身身身身身身身
之秋は日々病身身身身身身身
右の病身と言ふこと又西之と清府
へはしりし親吉の病危等身身
事と

東照宮より仰らるるの親吉の病危の
とく病身身身身身身身身身身
十二月八日親吉の病身身身身身
とく病身身身身身身身身身身
年二月廿日親吉の病身身身身
碧海郡桑子村の親吉の病
とく病身身身身身身身身身身
汗建よりしりる親吉

と本山に年々掃部古死と云く

早し一年十二月朔日親吉

病危等のよりしりる

白蓮院殿より阿保山前又前山之左

とく病身身病治く山前又前山

之右山日と云く山前又前山親

吉の病身と云く山前又前山

へはと云く山前又前山

事と

東照宮より山前又前山の親吉と云く山前

と云く山前又前山

十二月朔日親吉の病身と云く山前

と云く山前又前山

年十二月朔日親吉の病身と云く山前

北海郡桑子村の親吉と云く山前

と云く山前又前山

清建寺より山前又前山の親吉と云く山前

天保九年二月晦日死す。其
首を切らばしむる事なくして
七日後とてしるす。親者大
病ありて市中に死す。其時
少く家人信長と種長と定
むる事あり。法石平田院
体無大居士と稱す。其家人
は多岐助親信駒形と稱す。
其は義重とてしるす。名

の城門は信長とあり。其は
中より死す。其後とてしるす。

親心
金丸書

東照天皇は此御年二月大
名親心の時遊を成す。其年
一向宗の時の味方とあり。其

味方原長條より天保中別四陳ふ
信守のては後上よりくは地と場
親當に譲り親正の是親吉と屬
屋流ぬ。附くらの巻書十七年春
約る屋別して死七十年衆之別衆子
妙眼寺と尋

康重
若干席

永保六年一而宗之換の時宗つり
加々出款討とるらつる免許あり
てえの如くなほは同日七年二百席
重月一渡家下り宗之換とあり
衆と免許あり

康長
助一席

康長より宗之換宗長改め時宗

親友の家へ後居しつたに八年
八月廿日或別是月念我の兄を信
討死

古靴

掃部

尾法殿より仕

西廣

又右馬

東照文より書し尾法殿へ附り

親書

和書

合書

東照文より書し小牧山由京園より陣中
仕立の伏見河成書の之和之奉正
月八日秩より一箇石の同月廿七
伏見より死守一葉新地陣中

親友

金丸書

名徳院殿常侍大進吉田氏
行の寛永九年二月望日金丸書
友の同年六月廿七日
兼相列の座郡頼合村左之丞
に書

親信

金丸書 初六卷

大猷院殿常侍大進吉田氏
行の寛永九年八月
廿一日家督の同年八月
十日吉田氏の中身吉田氏
十月廿七日出立の同年十月
二十日卒七兼同守に書

親庸

養後書和之正所全在

七知 波仕入

慶安四年十二月十日
 寛文二年十一月十九日
 貞享二年九月十日
 後同十一月十日
 元禄八年八月十日
 享保二年十月十日

仁洞所附和文百名在

十月十日叙爵
 同安二年六月十日
 同安二年四月十日
 同安二年三月十日
 同安二年二月十日
 同安二年一月十日
 同安二年十月十日
 同安二年九月十日
 同安二年八月十日
 同安二年七月十日
 同安二年六月十日
 同安二年五月十日
 同安二年四月十日
 同安二年三月十日
 同安二年二月十日
 同安二年一月十日
 同安二年十月十日
 同安二年九月十日
 同安二年八月十日
 同安二年七月十日
 同安二年六月十日
 同安二年五月十日
 同安二年四月十日
 同安二年三月十日
 同安二年二月十日
 同安二年一月十日

親賢

七三〇

元禄五年三月廿二日

宝永六年三月廿二日

德二年十月廿一日

一月廿一日

常川

二月廿八日

府

同九年十一月廿八日

同九年十一月廿九日

同九年十二月廿九日

寺

全左衛門

伊織

親照

享保四年二月廿二日

享保十二年二月廿一日

○同年正月百家督○同年九月
十月十日死于二葉回寺子壽

七三如 江二六席

親邑

享保十九年十二月八日家督山菅
清○延享二年六月十九日病丸山院
番○同年九月病丸山院徙健好也子
也永又年九月十日死于二葉回寺

子壽

七三如 無文席

親周

實系并為監正行法書

安永二年十一月百家督長子同
又年十二月十二日家督山菅信同
又年二月十九日病丸山書院也天
的又年以子々々大的對心對道一

おのり寛政五年八月廿四日書院
番の同七年二月六日死に九歳
同有子孫

陰次席

親具

實巨勢大和守利永二男

天保元年九月十九日葬其子○寛
政七年八月四日家督以書傳○同

奉六日又白紙

大猷院御即位

平岩

高之百傳

按了

物部姓

家紋

九七曜
白浪雁

平岩全在邊正次二男

正次在邊

親之千乃始正之

年号月日不知

大猷院御即位初見○慶安三年九月

三日在在出

大納言敏高為附西尾即書院女
○兼德元年十一月十八日親
由切原三百餘場○萬治四年
正月十二日死之十一葉檢田原
妙行寺下葬

之郎云清 与次郎

親將

實板植平云清正弘三男
○年号月日不知場之續云云

養子○寛文元年三月十日
家督小菅清法○同七年
十月廿一日御書院番○家永
七年六月十八日領身小菅清法
○享保十五年九月廿二日死
八十歳同寺下葬

源九郎

親堂

元禄九年九月初見

○同十年四月廿九日死年終
葬所不知

七右邊

親ナカ範ノリ

實日本中世之近宗春二男

○元祿十三年七月二日卒

養子○寶永六年四月六日

部左衛門尉 白出山切末二官後

卒下湯小姓組○元文三年

正月廿四日死六十六歳同日卒
葬

長次郎 長命 友山

親ナカ教ノリ

元文三年四月二日家督小

曾孫○同四年六月七日

沖書院者○寶曆四年

八月廿六日相書内友賴母將

内友全三郎後長九郎親教

於宅札公一件之續并同九月
廿八日涉番 御免不番 諸令在報
○同五年丁巳月廿五日 御免
○安永九年八月廿日 御免
同年丁巳月廿七日 御免 各段及
○寛政元年四月廿六日 御免
之歲同寺 御免

親俊

右次布 左次布

安永九年八月廿日 家督小吉
信 ○同年十二月廿二日 初見
○天明元年七月七日 御免
○安永八年七月廿日 御免
之名王子助下 高成公 御
中 皇於御用 御浦米の
上 讀於御場所 反約二反揚
○天明二年四月七日 吹上 於
御庭圓物 上 讀於御場所

反拘二汗領○同年九月廿
演師教下汗威音汗沙逸於
肉馬場沙伏方汗貸馬言系
馬 上說○同三年十月廿
雜司ケ谷勅^ハ爲 成公古爲馬
汗用^ハ出牛込汗門外放^ハ出
真鴨射^ハ浦^ハ○同十六日
時辰之○同六年九月廿八日
於吹上沙危大的 上說呈^ハ辰^ハ

相領○同六年十月廿六日
來年^ハ沙^ハ場^ハ始^ハ大的^ハ村^ハ子^ハ
信^ハ年^ハ○同十月十九日吹上於
沙危矢相^ハ子^ハ等^ハ○同七
年^ハ二月十日吹上於沙危
沙^ハ場^ハ始^ハ大的^ハ 上說呈^ハ辰^ハ
二^ハ洋^ハ領^ハ將^ハ登^ハ夫^ハ日^ハ等^ハ 上
清^ハ復^ハ次^ハ全^ハ成^ハ救^ハ○寛政三年
二月七日吹上於沙危大的

上院吳服二洋領○同年
 十月十九日吹上院沙卷園的
 上院友相二洋領○同十一年
 三月十七日吹上院沙卷大的
 上院時服二洋領○寛政元
 年七月十九日小室宗流子術
 山月身松平田之免行治師
 靴仕

右之助 助松

親英

實素系者云法盛傷四男
 ○寛政六年閏七月御養子

台徳院殿御代

平景 平景 二百七千儀

校了

弓削姓

家紋

其内張弓
ニッ存令

平景令在基の正當二男

佐右衛門

平四郎

正包

初正後

寛永四年石公の道一庵米二百儀

揚りの大出毒。

徳和君附加秩百七千儀初りり実録
三百七千儀と成り神田沖敷水之平
少狭地隊。正安四年七月六日死
後名門江地中澤林寺に葬

正勝

不在

寛文四年五月廿八日神田少敷中

奥平小姓。同八年四月十八日水戸に
○正安四年八月廿八日家督。○
降徳院殿西九。水移延の所依。元
和元年七月廿八日西九。水納戸。○
同二年九月廿九日水戸。相。○
○同三年二月九日水戸。納戸。○同年
八月廿八日水戸。入。○元禄七年同
五月九日水戸。○享保二年二月

女日病死少重信信○同九年八月
女日死同寺

正行

佐右衛門

孫仕
休心

延享五年七月廿八日神田沖原
初見○元禄八年十二月廿二日養子○
宝永六年四月廿六日大坂高○享保

九年八月二日家持○同十八年二
月十八日先父之儀奉安○寛保元
年七月廿日致仕○延享二年十月
七日死同寺

親行

七左衛門 佐右衛門 金次郎

実因姓者白郎正令二男

安永七年十一月十二日。孝子。享保
三年六月廿八日初見。享保元年
七月廿日家法。享保。同二年七
月十六日大所書。享保二年正月
六日死。享保九年同寺。

親信

令次郎 五三郎

實由。由田。平。在。在。清。貞。三。男。
享保三年八月廿八日解。孝子。○
享保四年二月十二日初見。享保
二年十二月廿七日大所書。同三年
四月三日家法。享保。安永二年同首
十日。孝子。家法。出。級。○。享保二年七
月廿一日。出。級。病。死。○。同四年六月
二十日。病。死。小。書。信。○。同六年八月

廿二日死五十八歳同寺

親長

孝子郎

實大并理之傍昌明二男

安永八年九月廿六日養子。同六

年七月廿日初見。同七年七月十九

日大西島。三郎二年三月廿八日大橋

坊方。同六年同十月廿日大橋坊。

同八年十二月廿日病死小岩寺坊。

天台院

平岩

校了

物部姓

家紋

比羅
三つ巴

言三百後

平岩合及為正苗二男

其苗正苗

正苗

正色

正後

寛永四年

月打

次男正新親

正色正色切米式正後系正色苗

○寛文元年九月大育神田

御教
常德院教附法加僧七拾後得
教旨之百七拾後之旨之成法先
法持院法○也室四年七月六日
年一齡之知東山願寺未法年
淨林寺之葬

正令

正友

法助 出高部

天和元年六月十日

奥に正出無足そお初公知御書
し御相の子下仕書は 作手勝
作手守之成り如願旨蒙
上意以手無足るお勤手正出
法切来之百後法願仕交旨上
法相の子修法中へ通旨後下
直之之 上意言成基出所
然亦同年十一月廿九日由切来
三百後下○年号月日

大徳寺 ○正徳二年四月九日病免
小徳寺 ○同^{享保}年三月十日
右刺髪多斗^斗波 ○元文二年
十月九日死八十之衆同寺不葬

三ノ巻

正次

寶永六年四月十日從教在位
大山崎山切系式百後系下 ○正徳
二年正月二日故在位死年三

兼同寺不葬

七ノ巻 大徳寺 全巻

正義

正徳二年六月四日之男惣領
○享保六年十一月十日家智
小徳寺 ○同八年三月十日
大徳寺 ○延享三年十月十日
病免小徳寺 ○明和九年
四月十日病免一慶長改 ○

安永九年十月十日死今七歳
丸山淨心寺一葬

龜太造 大藏

親則

享保七年五月一出官智之續
若願養子○同十三年七月
朔日初見○寛保二年十月
三日從初至任大津藩切米
式百俵○明和六年十月廿音

同組与氏○同八年八月四日
大坂兵番与氏六十九歳谷町長久
寺一葬

如母方尚子名
依一豊次郎 六郎九郎

親充

實坊内外託貞智次男
○明和八年七月四日一智養子
○同年十月二日嫡孫兼祖
○同九年七月十日家督小當

○安永元年丁未月十九日大嘗
○天明七年丁未月九月之方卷
奉行○寛政二年七月十日
涉購以○同年八月十日
向古取締用掛○同
二月十日取締用掛
許免且骨打古動身以廢
全寺枚振領○同日由德新
涉德法元調涉用○同年

十六日給術上覽及物式及
許領○同年八月十日
孝順院敷印授用○同年
八月十日許領用
山後為限拾枚○同五年七月
二月表以表新以表改○同
六年八月十九日許領用
○同年十月十六日布衣○
同八年十月十八日入

骨抄身法慶安時版二張

○同九年二月大町同出小僧

○同年八月每日法施之次

○同年十月三日法施腰物等

占勤公信法道具古買上法用

骨抄身法慶安時版二張

○同土年十月有本年中四月

於日光山

大猷院教百六拾回法施事

彼淨山法占勤淨用下勤有

奉之巫・本四年

親隆

天明七年八月十九日初見

一 淨願指物

一 志津島長刀

右友平右平君之牙以親台淨願

仕及平若き四弟之令儀法
私家代不仕指物有之字
有用也

東照文御代

平若

お氏弓削

高内百儀

授了

弓削姓

お姓物部

家紋

丸内張弓
ニ宿令

平若左京進親昌五男

長方書

親直

お正直

之州の氏家少く出せし其の養育
と更成長は後兄より計以親若

親定

左郎左衛門

病身二月出家すつと名義親定二月
浦賀之澤去宗と号す形無しと号
号と名大老名留事元成徳也去事
元成徳二月江戸表と出宗安二年
出宗去宗と号す。明暦二年十月
八日死牛也清海寺と号す

親勝

八右衛門

生涯浪人あり元禄十六年八月廿七
日死因寺

親貞

清左衛門

正徳五年十月朔日大所番と改出袍
入現来八年不効く。元文二年八
月廿七日死。字。景。同。寺。

親房

維次郎 是左衛門 八郎

享保九年閏三月廿日由去院番と為
○宝暦五年四月朔日死。年十六。

同寺

親豊

半郎 是左衛門 次郎

宝暦五年二月十八日大所番と為。○
由書院番と為。○安永五年日光寺
社系小宿刻沖用。○同七年四月六日
由祀勘定。○同八年二月晦日。

存恭院殿冲葺送水法事水用。同年

四月廿二日齋粮之教。同年六月十日

存恭院殿冲葺塔水葺法水葺屋水葺

水葺屋水用。同九年七月廿七日齋

粮十五枚。同元存六月六日长荷

冲用。同二年十二月三日内府齋粮

二十枚。同四年同正月八日大坂内

府冲用。同八年十月七日内府齋粮

七枚。同九年二月。同六年六月十日

水葺定。同年九月十日

俊明院殿冲葺送水法事水用。同年同

十月十日齋粮又枚。同年十月十

九日

俊明院殿水葺塔水葺屋水葺水葺

水葺屋水用。同七年十月七日齋粮

二十枚。同八年十月廿一日

禁裏山下方山島清沖用江戶幕。
寶慶二年十二月廿八日發令之板付
後二。同元年八月十日沖延寺用
同年八月廿日發浪七板。○同年八
月廿八日西水郡代梅斐造酒物役
不向並少死不村。○九條沖用九月
日山海同六年正月廿八日賜。○同
年二月九日。椒^淑姫君尾張殿。○山

梅山用。○同年四月。○西國初出
綿山用發令二板。○同年九月廿
日。○日叙塗上院五物二。○同七年上
月廿八日
沖基不涉產用。○同年十二月
七日。○不存令發附方。○山引了
不網法。○沖目通。○若相。○同月廿九
若相。○同八年。○同月廿九。

沖基不承度出用廣浪七段。○同九年二月廿六日。後京積原所實附云。所出用向云。段。○同年十一月九日。春。兼向云。七。如。元。出。地。氣。出。相。向。出。五。綿。出。用。同。年。八。月。廿。四。日。右。出。用。廣。浪。十。段。○同。年。六。月。廿。二。日。出。京。出。出。段。

親庸

平之丞 昌次郎 右膳

寬政八年九月六日。出勘定。○同七年四月十九日。初。繪。上。院。之。五。物。二。○同。年。十。月。十。日。出。京。之。云。云。馬。術。上。院。○同。年。正。月。廿。七。日。向。國。推。業。之。云。云。内。務。寮。心。出。林。代。透。出。用。同。年。

東照宮始 石室之後 渡摩多忠台御 爲時
初仕之也 二年七月十日 乃死 年七十七 葬地云

忠勝

二文部

慶長七年 初

東照宮始 石室近者 相勳如神 肯 神意示

從人 紀多 仁母

台他院 殿 初代 山腰 抄奉 約 ○寬永二年七月
清上海 以信 ○日十七年二月十七日 死 年七十七

葬地云詳

一 右之文部 初二言 石室之後 山加恩 也 在 山

石室 相勳 中 知 約 抄 奉 約 中 信 也

一 年月 云 云

東照宮始 石室之後 渡摩多忠台御 爲時
初仕之也 二年七月十日 乃死 年七十七 葬地云

定次

山室門 小三郎

其者 飯田 山室 門 重次 二男

年月日不知者子○寛永六年新設
より新設○同一年新設
係○子存者父忠勝死存同十九年十
月十二日忠勝の切末可名止忠勝実子
如名可名達 上同の存可名止
名止仁渡○之後定次初名可名男子也
若子存如如年数余未可名男子可相
正保二年二月十日死云名可名可名
如名可名可名

清秀

七之世

寛永十九年其父之五郎忠勝の切末可名止
名止七之世清秀如名可名達 上同の存
可名可名 石名名可名仁渡同母一年二月廿日
幼見○慶安二年十二月廿六日大相違云
是名可名○兼意元年十二月十日死云
如名可名可名

清面

二六郎 八之盛

実之宗師忠勝三男
兼徳二年十二月廿七日急養子成徳○
同二年二月廿七日大和國妻○同曆二年十二
月廿日新親山切来二百俵○寛文八年文
同七年山納左兵衛○延宝二年十二月廿日
二九郎 上院右助盛七郎時俊二○同二年
六月廿日山切左兵衛○同二年十二月廿日加

恩百俵山切料百俵○天和二年六月廿日左
朱山切料百俵山切恩山切料合山切俵与成
○元禄元年六月廿日山切左兵衛○同十
年四月廿九日急免○同年七月六日急免○
宝永六年二月八日死半朱築地山切左
淨見寺急免

清光

二六郎 二七郎

年月日不知初后任山切書院妻○元禄

二年九月海月九日二年早福因宗
春寺蘇

義鄰

武吉活 心之也 他亦

宋吉活河城慶方松邑幼助名會源男
享保二年六月十日解卷子○同十年十月
廿二日初命住久津慶○同十七年二月十日
廿二日初命住久津慶○同十七年二月十日
廿二日初命住久津慶○同十七年二月十日
廿二日初命住久津慶○同十七年二月十日

○安永元年七月八日元六年九月氣門寺蘇

清博

云云席 大炊 務助 清法 南水

宝曆七年十月有後被命保山納戸○同子
十月十日布衣○同十年春神年暫沙社有
其向一同持子十名上名然後渡島松社
其一同社上住の者及也其の花生淨飲○同
年三月朔方西丸寺後留信○同十年八月
一日統多合○同十二年十月六日山納戸○

明和元年十月廿五日唐津燒御宗統一

清國子名飯○同年十一月十八日中川御宗統

野山信子名飯○同年十一月廿三日○同年十

月十六日清陽性中成湯馬勢子相勤比有也

子深仔進村海老原村○同年

大更四座愛向也他後山用也勤比有十二月廿七

日有德次端和清比比兼之柳紋勤方約

并時後二德端○同年更向也

上院及向也所之好更交也勤也所勤仕也

○安永元年二月廿九日同志所人坂方大

了岸界村也勤并同也所之好更交也勤仕也

○同日廿五日中志所之好更交也勤仕也

出金女更也信仕同月常之好精也勤比有也

辰思也之今二年更所也○同年十月六日

家信○同日五年二月廿七日朱也同月廿五日

清社系也信也信也信也信也信也信也信也

也信也信也更向也者同也矣 同日更

上之意○同年四月廿五日馬中口藤等年前之春向信

修復有之... 右... 年... 山... 小... 月... 免... 免... 免... 免...

安業

新... 張...

功... 又...

同... 席... 部... ○... 白...

貞愛

神清行

武...

丹...

張...

伊...

明和二年三月九日初見○安永二年六月廿
 初見後り也山納戸○同年十二月十五日布衣
 ○同二年三月十日宗姓○同年四月八日奥白
 大納上履之遺履為之相初也度湯田所
 ○同二年六月十日神符一枚秋長別務任
副任持信山本神小刀柄一
 本赤銅加別表眼
持信持表為形毛彫神石目所成○同二年四月
 七日來信月日之山 神社系也信也初有信也
 五平投所成也八分奥白信也者也男同
 神月分家 上之志○同二年六月廿二日

神社系也信也初有信也二○同二年十二月十六
 日信也或或信也○同月十七日
 後明院標神画一幅山水白紙○同月廿一日
 信也也○同七年四月十日信也 上履也
 二也信也也初信也○同年十月廿一日
 信也也信也也信也也○同九年八月廿一日
 信也○同月廿九日野馬一疋也○天明元年
 二月二日相次信也也信也也信也也同月廿
 信也也信也○同二年三月十九日信也也

午塚

有徳院殿清代

平塚

校了

平姓

三三首石

家紋

梅甲内梅折
丸之内三川
二重梅甲内梅折

葛原親王より後流三浦平左衛門を以て通云三浦
平左衛門を重孫余が軍小佐軍功あり小く
或る平塚も三子所跡小佐三浦と改平塚と
稱す右を重七代孫

因幡守 平九郎

為廣

らるる為名は少牧長子小南系あり
合戦小軍功あり小たりて五万石あり

後文位下國懐山任ら秀在波後秀頼
小後山々々々忠告と盡し一後秀
頼方諸將皆愛公とありり乃廣一人列
ふあり國々承に力戦一東國方尚
對馬より進來り教ふしん敵ふ當り合
所多し皆戦死し乃廣より山内通后
權井友三指し相戦遂ふ討死し山内
乃廣より武勇と感
家康公。披ふしんまゝ。ふ山も感賞入

ちし進出陣の後彼が長氣猛勇と
之れ旧家の事をなすおほしめい敵が
ししそ海終ん事と悟むい乃廣が
男某と名あすのら紅伊無頼頼
雲々小は事と情と進しと也

久賀

俗稱名詳

傳不詳

東

金屋門

傳元祥

東

却善信

傳元祥子孫當時紅存家小姓

東

一房在門

明曆二年紅存家小姓○元禄
二年十月方死年終不知紅存家小姓

小蘇

近秀

一房在門

元禄二年十二月方死紅存家小姓○元德
二年四月晦日申九時終○享祿元年
十月二日申時方死○同
十月十八日申時○同享祿元年十月廿九日死
九月廿九日申時法真寺葬
年月方死申時一腰此處有誤法真寺葬

為政

伊賀守 伊賀守 伊賀守 伊賀守

享保六年八月十日勅命任方三升中姓○
同六年六月廿日家格○同十年二月十日
出納戸○延享二年六月廿日勅命任方
○同年十月十日法在吏○宝曆八年十月
七日御入官改○同十二年二月廿日
○同和二年四月十日任方養乞二百俵○同
年六月十六日元十九日同寺蘇

奉以分不取中可 或為了吉門 一腰淨御

為政

伊賀守 伊賀守 伊賀守 伊賀守

寛延三年正月其初見
奉以分不取中可 或為了吉門 一腰淨御
○宝曆二年六月廿日
○同年十月十日
○同十年六月廿日西元勅○同十
年

信長院教書神有八月十日奉令○同和元年
六月廿五日勅命任方○同二年四月十日家

○安永六年正月日元 神祇系譜○
天明七年十月十日 神祇系譜○
十一月十日 神祇系譜○
天明七年十月十日 神祇系譜○
天明七年十月十日 神祇系譜○

為興

安永六年 二十日 見 玉穂

○安永六年正月十日 神祇系譜○
○安永六年十二月十九日 神祇系譜○
○安永六年十二月十九日 神祇系譜○
○安永六年十二月十九日 神祇系譜○

○安永六年正月十日 神祇系譜○
○安永六年十二月十九日 神祇系譜○
○安永六年十二月十九日 神祇系譜○
○安永六年十二月十九日 神祇系譜○
○安永六年十二月十九日 神祇系譜○

為長

安永六年 二十日 見 玉穂

○安永六年正月十日 神祇系譜○
○安永六年十二月十九日 神祇系譜○
○安永六年十二月十九日 神祇系譜○
○安永六年十二月十九日 神祇系譜○

室永元年刻印中九勅定○正徳之子
十二月刻加秩子十條院合百五拾條○高保
十五年九月庚子日諫奉納○元文二年又
月十日死六十七歲小石川佛道院地中昌
林院葬

孫次郎

教行

元文二年八月二日葬○同年九月十九日
半人紀○同和元年同九月十六日死五十七

日寺葬

教親

長三郎

同和元年十二月八日家譜○室永二年九月
十九日半人紀○同文二年四月日乞
神祇系也信支原神字教○同九年四月
廿七日上大的 上院時破三○天明七年
二月廿七日 藏人大的 上院時破三○
寬文七年二月廿七日火全出山門後子

同文二年三月廿七日

某

大之部

嘉和三年七月廿七日

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

白徳院殿御代

平松

校了

源姓

弓腰本銘石

家紋蛇目

本曾義仲之從軍石黒左衛門光弘
後胤

光次

伊賀守 石黒市公事

今川義元氏真由將不仕強弓之云云
河原永祿七年

平松

之身一以元氣正其子孫之身也
東想之如多者後之任重に任重を行ふ成
之身一以元氣正其子孫之身也
魂と正男正女と正男正女正男正女
中古りの中古り正男正女正男正女
中如忠義今今之者之使小正男正女
年二上之志有く子孫之身正男正女
將市正女正女正女正女正女正女
正男正女正女正女正女正女正女

可有同名者少正男正女正男正女
正男正女正女正女正女正女正女
上別白并。正男正女正男正女正男正女
正男正女正女正女正女正女正女
中如正男正女正男正女

平内正門

集

正男正女正女正女正女正女正女
正男正女正女正女正女正女正女

正次

法華門 新古門

おらあは青く初久野丹波守の同子あを
るふら後丹波守と申合或切有之と雖
りあは紅作亞相と申付し時正次は傳
伝次と申成久成方高辰

元年

松平九郎

母は夏は伝松平十郎金之助女 お中不殿
十郎金之助と

廣忠は御東夷も人給漸服家も日と流る別

小使在之及法子死云

元年の松平代稱は平松と改

事は元年の石見守伊賀守の富男永徳子

は多分高江守の生母河又伊賀守の母中より

男子大勢有之と云は皆稱号石見也

若末子と云者氏姓合結成多也今川敏

成七久と云者敏士と稱成門の實加也云

外戚十郎金之助と云者氏姓結成者少し也

傳史和源戰也。古者有者合國子也。至
清水運と申す一人也。未嘗一人也。我不至不
可過。世能愛父先次。性信。許新佐母
切。子。敏。人。小。悦。別。讓。子。母。方。氏。姓。并。家。改
為。松。平。凡。因。源。光。幸。と。号。於。威。為。子
是。十。師。也。敏。而。將。軍。中。也。獲。と。申。す。言
世。山。柿。不。動。一。軸。美。小。願。光。留。小。敏。の。名。藤。の
永。祿。十。二。年。今。川。家。没。産。伊。賀。守。と。世。と
傳。の。勢。也。と。母。之。年。と。懐。て。三。次。と

尚。是。一。族。也。と。い。身。也。名。也。各。各。後。天。正。年
申。是。中。也。也。志。之。来。又。伊。賀。守。今。川。家
陸。心。と。士。之。義。士。之。名。河。之。若。年。流
市。家。教。師。也。と。い。言。之。事。也。今。某。以
原。小。在。從。松。平。と。名。家。事。可。懐。也。也
石。志。小。改。也。と。云。之。光。幸。と。名。也。不
石。志。之。名。也。勢。也。と。名。也。昔。常。と。亡。母
と。示。小。之。遠。也。名。又。名。字。也。也。也。是。見。也
用。亡。母。實。也。夜。話。小。也。事。而。已。常。小

走りて殊に後來可被時節可要之竹
 皮包一封の書を竊小は讓至は是情
 更に秘改又上高倉の敵に貴族を可突
 て曾るに所門に後再之依有是見能
 父より父免母より未は許命也して松平
 之下に書留る平松暫侍後年中具
 平松の家記由新作之年の母に懐抱
 中より母を及北平移る故疾は
 時之病を治上徳小福浦少あり一族の

之に高名を事之に其源誠國
 家計の之に武門の業小怠に漸之
 功健別山如る之に和元年夏

徳川家奉為忠義依命改土佐守家泰則泰忠

後号第力忠
朝上徳勝浦

領主也元植村出羽守家次弟三而鳳来寺安養院二位法印后
徳川家奉為忠義依命改土佐守家泰則泰忠之父也
 相從六月八日大坂由遠口小向い城中を
 逃る者之流射落し其より反泰忠小
 達より依る時賞賜名とあり其之を
 主格正吹奉と云ふ并大坂以勝利勝山屬

奉使五百名と成し侍人將きり或時
利勝幼面傳ふは戸神坂下馬前云
之礼は彼有し利勝之幸小舎りて
ふきつと行しむそののらひ女人の重
河とてきてと并家と退仕編植村
希力忠切仲希忠又
希勝とて高き時
希力忠切大慶次とて之初年中大
津美ふ力小抱入し是忠切は少属
とて是言り或石と物ふ是之水軍

照と乞同九年七月に死す年二十歳
多詳

忠幸

平松又左衛門 左内
後又左衛門

寛永四年八月廿三日桂村希力共力〇回
十二年小幡勘兵衛氏共力〇回
氏重徳州世に居て其子に及ぶ氏重
は招小幡一子居て成〇万治元年
氏重家以終り時其子に桂村忠切子

忠勝此時大あきまらて寛文二年二月
人請多共力三百名○同五年依款
以帳○寛文五年六月十二日死七年二月
浅草約宗寺葬

奉行

集善門 檀金 店助

寛文二年二月十日中書院より力櫻承
八十名○天和二年大御前より力○元禄
十二年四月廿九日卒○寛文四年

二月二十日卒○同年葬

左幸

集善門

元禄十二年十月十日大御前より力○寛保九
年六月清書地宗の用二年相和の儀
支度名帳○同十年二月火令の席地
○同十二年より国宗より授地所用は年
勤仕○同十二年四月日之御徒より共○
同十二年二月死勤定○寛保三年上

月日劫定遠玉酌之捨地月日劫内藤氏
女房名以○寛享元年九月廿九日
赤岡寺葬



又右等

幸駕

寛享元年十二月百家信○同二年九月
十日少半人絶○寛延二年八月十日為免
○明和二年四月十日改仕○天明元年之
月日死七年二月同寺葬

幸靜

四時(重)

寛享元年八月同寺葬
宝曆十一年四月廿九日○明和二年
八月廿九日○同二年十二月廿九日
乙未同寺葬

幸展

表名

明和元年二月廿九日家信○天明元年十二月

同姓之百死字之宗因寺葬

忠勝

傳法師

実志進也西河上香藤園宮内少輔忠勝
天正七年二月七日卒○寛政九年三月
月廿八日死年五十九同寺葬

虎幸

百二序

寛政九年六月廿日卒

東照宮清代

平井

和蘭儀本又云為三武百儀

授了

源姓

家紋 三ツ巴 流石丸

字多天皇子之皇子教實親王之後胤依
之末二節秀茂末流之為清流也三武儀也
代平井左衛門尉源繼孫

勝當

世系在東門

年月日之知也云云 清家公孫也子信傳

平井

已詳

勝友

年九月

年九月

東照宮奉仕天文十八年三月十九日
祥子為之繼嗣任廣之合我之計
傳年終葬地之詳

勝友

年九月

年九月

東照宮奉仕高之清陣口任仕清具足清馬
在殿之遊二年十二月廿二日
在殿之遊二年十二月廿二日

正勝

年九月

東照宮奉仕天保元年九月
心者台川十三年
市之川

相公の附原代勤王家の級

新三席

次定

形之次

東照之孝仕年月々々知家格之後又國々
良臣年月々々知公之孝福級○慶安
元年二月十日死年數之知公國感通寺葬

佐治重門

正屬

年月々々知公依見

東照之孝仕年月々々知公之退家級

高直

次重

慶安之年知公家格の統○之後公依見
○西曆二年十月廿日死年數之知公國感通
寺葬

佐治重門

重右

大藏院致。多古出。口之。与。委。由。初。出。家。能。得。

次方

云云部

同曆二年十二月家信○延宝元年二月
市勘定○天和元年十二月六日吉田信吉与
船使吉吉与为用上及泊用。可及城名○同月
吉吉与服全二校○同二年二月山用渐帰府
○之禄二年二月六日林幸行○同七年
八月十日林幸石奉行○正徳元年八月十日

市勘定○同六年七月廿八日免之禄
全或校○同六年十二月百源后○同八年
九月十日免七年八月同寺義○

次當

新公部

實名 酒井雅宗次家集
初使河原左衛門出輝次男

享保四年七月十二日解卷子○同六年十二
月十二日家信○同九年八月十二日甲府勤
○同九月廿八日暇○延享二年八月廿日免

免慶令二枚○同元年二月十六日隠居○同
年二月七日死七十四才甲別府中法華寺
葬

次永

仁善門孫之席 初仕愚九

実志兼國助右衛門方雄次男
享保十八年三月 日之志才日子○延享四年二
月十六日家落○宝曆四年七月廿八日家落
清月元同八月十日帰着○同十二年十月去

免○明和元年十二月十六日歸仕○同元年
二月七日死早八才同寺葬

次實

新八郎 五合

実志小栗左衛門持正三男
宝曆十二年十二月廿九日家落子○明和元年
十月十六日家落○甲府藩御安永二年十二月去免○
之後年月々々知再勤美○寛政二年二月
十八日死早三才同寺葬

次懐

平井左衛門 乙四郎

寛政二年三月十日家信○同十年江戸参
所同十年三月十日家信

横田御殿

平井

高田拾係

校了

源姓

家紋 三ツ右色
波丸

平井左衛門次重三男

次久

平井

貞享二年十月十日横田御殿より親類より
以右系の切来百五拾係○元禄十二年十一
月十日の家信書物より○享保四年十二

同十一年九月廿七日同感通寺葬

安永 清江

次勝

享保二年十二月廿七日葬
同九年十二月廿七日葬
同九年十二月廿七日葬
同九年十二月廿七日葬
同九年十二月廿七日葬
同九年十二月廿七日葬
同九年十二月廿七日葬
同九年十二月廿七日葬
同九年十二月廿七日葬
同九年十二月廿七日葬

安永 政

次昌

同九年十二月廿七日葬
同九年十二月廿七日葬
同九年十二月廿七日葬
同九年十二月廿七日葬
同九年十二月廿七日葬
同九年十二月廿七日葬
同九年十二月廿七日葬
同九年十二月廿七日葬
同九年十二月廿七日葬
同九年十二月廿七日葬
同九年十二月廿七日葬
同九年十二月廿七日葬
同九年十二月廿七日葬
同九年十二月廿七日葬
同九年十二月廿七日葬
同九年十二月廿七日葬
同九年十二月廿七日葬
同九年十二月廿七日葬
同九年十二月廿七日葬
同九年十二月廿七日葬
同九年十二月廿七日葬

次夜

市庭

吳有武後市之進玄元次男

天明元年十二月十日吉子○同二年九月

神見○同八年十二月廿七日家傳

天明七年九月十二日家傳 上廣元及四二五

次

大猷院殿

平井

如南高家

高田百保

校了

平姓

家紋
三日月色
波丸

高田少左衛門正定次男

重教

高田少左衛門正定

慶安二年九月十日次男高田少左衛門正定

○養應元年十二月十八日次男高田少左衛門正定

又二年十月十日次男高田少左衛門正定

二百加秩二百俵○天和二年三月廿五日加秩
百俵○貞享二年九月十日官位廣敷敷
○元禄二年八月廿七日免○同十四年
三月十日死○廿二年小石川急津寺葬

教重

平井
左衛門右衛門

大寺田重門祖父多治小治清定之奥方
苗字平井平井之改度名重之如
貞享二年二月廿五日歿○任有子

安室三年三月廿五日歿○同六年二月廿
九日歿○同十四年七月九日歿○同子
九月廿六日官位免○享保二年青
廿八日免○同六年十月廿七日死○平
同寺葬

次豊

左衛門

宝永六年三月廿五日歿○享保

六年十二月廿七日家老○寛保二年二月十日
死同寺葬

次也

云梯 定次郎

実者名は小左衛門忠烈三男
寛保二年七月二日吉子○寛保二年十月
三日御座候より大御殿○延享元年四月二
日家老結○宝暦十二年七月二日死年廿七
同寺葬

惟溝

治之郎

実者名は林惣三治三郎男
宝暦七年十月十日吉子○同十二年十
月吉家老○天和二年三月廿二日家老○
天明八年二月廿日死年廿七同寺葬

克寛

小左衛門 秀茂 五次郎

実者名は林勝之助三郎男

天保八年六月信方急方急子急信○寛政
元年九月廿五日初九○同八年二月二日大
山妻○同九年同七月廿七日山内戸○同
年十月十日布衣○同十年十月十日布
衣急方急

神田清敏

高信儀

平井

橋姓

家紋 花菱
井筒

掣

先祖山城國住人平井由敬某之
孫

某

由敬

寛文二年六月八日新撰急方急信○
同六月十日神田急方急信○寛文二

年五月日南西匙○同八年正月紀元用
之師之介少名○同年六月廿五日
年齡之志芝坊上寺中月昇院蘇

東

省庵

寛文八年九月廿日家信○同九年二月
廿六日神田日致星島醫師○延宝八年十月
七日西丸山島醫師○同九年八月廿日西丸
島醫師○享和初申年八月廿日

常憲院致神農画像在座○天和年
七月廿九日致林若きる○同九年八月廿日
より江戸の海島九○貞享二年九月廿九
日西島醫師○元禄十一年十月廿八日山島信
入○享保二年十月廿九日年齡少知同書
山蘇

心高

由新

享保二年十二月三日家信○寛文十二年

六月廿九日卒年同寺葬

正信

由新

寛政元年八月廿九日卒○宝曆六年十二月廿九日卒○同七年六月廿六日死○同七年同寺葬

正興

省庵

実志森也の益正之海書

宝曆七年八月廿九日卒○安永九年十月廿九日卒○同寺葬

正好

由新

安永九年十二月廿七日卒

有德院敬清代

平井

校了

源姓

高二百俵

家紋 丸内之葵
右二色

正保敬家后平井二席高唐正朝之代
孫

正基

正保高 高内備 官内 楠十席

宝永八年二月高正保家出姓○正徳六
年六月其子高正保家出姓高正保家出姓

家譜保
下刪

永二音儀○享保之年七月十二日布衣○
同八年六月十日加秩二百位○同十二年
四月十七日免 御社奉祀 金指授○同
廿年九月廿日小納戸免○同年十二月
十六日諸事更官同少輔○寛保之年寅月
初九日御殿叙以高加秩五百名止格式由性
紙敷以格○享保二年十月十二日清以叙
召放以加恩五百石免止小納戸格入左格○
同正来三月廿二日免以免○寛延三年

三月廿六日死年七十五由由松寺葬

大學 彈正 内膳 為三

心則

實公公保源次郎忠喬次男

享保十九年十二月廿四日解官為子○同女
年二月十九日初見○寛延四年二月廿
日免○宝曆六年十二月廿日清以流為○
同十年三月廿六日進仕由○同十年十月
廿六日清以流為初式由初仕後二○明和元

本年十月廿九日西元〇安永十年四月廿
日死六十一歳回寺葬

正誠

織部 徳之助 五之助

実者之説之部金の仲也男

明和五年十月廿日葬養子〇之明之

年六月廿日葬告〇同七年七月十日死

至又高利者之長也〇同七年十月廿日死

小姓也〇

神田清敏

平井

三武百俵

〇授了

度京姓

家紋

花菱 井新

先祖不詳平井左助来思成

台石橋

正則

年八月廿日死

敬有院敏也代竹橋清敏長二尺五寸五分

少若也〇之禄九年八月廿日死七十八

首中常寺寺丞

三十一
室之

重忠 御佐 玄諦

貞享二年十一月廿二日
○同二年十一月廿二日
○同三年十一月廿二日
○同四年十一月廿二日
○同五年十一月廿二日
○同六年十一月廿二日
○同七年十一月廿二日
○同八年十一月廿二日
○同九年十一月廿二日
○同十年十一月廿二日
○同十一年十一月廿二日
○同十二年十一月廿二日
○同十三年十一月廿二日
○同十四年十一月廿二日
○同十五年十一月廿二日
○同十六年十一月廿二日
○同十七年十一月廿二日
○同十八年十一月廿二日
○同十九年十一月廿二日
○同二十年十一月廿二日

貞享二年十一月廿二日
○同三年十一月廿二日
○同四年十一月廿二日
○同五年十一月廿二日
○同六年十一月廿二日
○同七年十一月廿二日
○同八年十一月廿二日
○同九年十一月廿二日
○同十年十一月廿二日
○同十一年十一月廿二日
○同十二年十一月廿二日
○同十三年十一月廿二日
○同十四年十一月廿二日
○同十五年十一月廿二日
○同十六年十一月廿二日
○同十七年十一月廿二日
○同十八年十一月廿二日
○同十九年十一月廿二日
○同二十年十一月廿二日

室澄

舍人

貞享二年十一月廿二日
○同三年十一月廿二日
○同四年十一月廿二日
○同五年十一月廿二日
○同六年十一月廿二日
○同七年十一月廿二日
○同八年十一月廿二日
○同九年十一月廿二日
○同十年十一月廿二日
○同十一年十一月廿二日
○同十二年十一月廿二日
○同十三年十一月廿二日
○同十四年十一月廿二日
○同十五年十一月廿二日
○同十六年十一月廿二日
○同十七年十一月廿二日
○同十八年十一月廿二日
○同十九年十一月廿二日
○同二十年十一月廿二日

^{傳信} 後院殿傳信○同十一年八月傳信○
 安永五年七月傳信○
 年八月九日傳信○

七傳信

傳信

室教

安永五年十一月十六日傳信○同九年十二
 月傳信○
 ○同九年十二月傳信○

同九年甲府勝子傳信○同九年五月十二
 日傳信○
 甲州遠光寺傳信

室房

教馬

安永五年傳信○
 同九年十二月十七日傳信○
 同九年六月傳信○
 同九年甲府傳信

台徳院敬請代

平井

高又百石

授了

源姓

家紋源氏車

先祖不詳

東

么右衛門

元和三年正月大坂御陣之役浪人
台徳院御前御書院受○同年正月於
大坂之邊馬場入小倉御書院

東照文皇御流教訓家言 御勅石印御願
寛永十四年 御勅 御免 ○同日十年正
月十二日 死年 御勅 御流 御流 御流 御流

長重

石印御願

寛永二十年七月 御流 御流 御流 御流
石印 ○年月 御流 御流 ○年月
元年八月 御流 御流 ○寛永二年七月
二月 御流 ○之御流 御流 御流 御流

不知寺葬

一 不知の寺に葬るる御流 御流 御流 御流
御流 御流 御流 御流 御流 御流 御流 御流
御流 御流 御流 御流 御流 御流 御流 御流

常義

石印御願 御流

寛永七年十月 御流 御流 ○寛永六年二月廿
九日 御流 御流 御流 御流 ○之御流 御流 御流

豊成

弁左衛門 清次郎

実名国根幼十郎昌成次男

寛延元年二月十日吉子○通曆九年

三月吉家信○同年同七月吉子信延

○同年十月吉百信月礼○安永二年正月

日吉津信宗の佐支度信事收○

豊昌

熊次郎

実名新衣信中吉吉隆吉男

安永八年十月十日吉子○寛政六年

十月十日吉信信吉津信院妻○同七年

同月十日吉信吉津信院妻

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

清康素印代

平井

三式千俵

校了

平姓

家紋 井ノ字

之相如群

某

愚去吏

年月日 姓名 官位 禄年 等

道幹 梅 在 世 之後

東照宮 寺 住 口 口 口 中 間 支 社 住 清 康 場 也

以信教所由新山口切本馬死去年月
年齡葬所地之詳

東

古石堂

父口名

東照寺下寺住持陣山信教住持之後年月日

紀列

南新院教士為所勤仕存別紀列年月日

不知死口切本馬年齡葬所地之詳

東

古石堂

年月日不知又臨武家

南新院教清溪院教士在申方出役

○寛文十二年八月廿七日古石堂

七石寺人持巧下○之後十一年死年月

年齡葬所地之詳

東

古石堂

○元文二年八月廿三日在古志乃坊主○同
二年七月廿日同家口用初金坊主○延享
二年九月廿日同家口用初金坊主○宝
曆十年十二月十二日表坊主經次○明和八
年六月十八日病死○同朋以死○同月廿
二日死○年十二月廿日同寺葬

貞辰

古阿保 古助

明和七年八月十日表坊主見智○同八年

九月廿日家信○同六年十二月廿日表坊主
經次○同九年八月廿日同朋以○寛政
十年八月廿日死○年七月廿日同寺葬

貞幹

古阿保 古河保 古助

寛政元年二月十日同朋見智○同七
年十二月廿日同朋○同十年八月廿日同
朋以○同九年十月廿日家信○同十
年二月廿日同朋以

榎田清敏

平田

坂了

反系姓

家紋

若前江二邑
三ヶ所

高直子孫係

和泉國住人平田清十郎尚之丞胤長兼門

某婿男

尚信

長兼門

長兼門

之祿五年二月十五日浪人平田清敏

平田

年月之記之當意歟○安永八年九月廿
 日祭○天明元年十月十二日西九山人○同
 二年同十月廿九日祭○同元年十月廿九日祭
 同日祭○同日祭○同日祭○同日祭○同日祭
 同日祭

尚約

海十師

天明八年十二月一日祭○寛政八年十二月
 十六日祭○同元年十月九日祭○同元年十月九日祭

大猷院教澤代

平由

高三番儀

校了

夏永姓

家紋

番甲内山ノ字
 以番ノ番甲内ノ字ニ有也

先祖名詳

某

通有

寛永十二年十月廿
 大猷院教澤代ノ事○同元年十月九日祭
 同元年十月九日祭○同元年十月九日祭

淡東坊南系桃林寺新

集

道有法眼

寛永七年三月朔卯日○同月廿五日
持名院為合醫師○寛文元年十月廿日
宗南醫師以切來或百儀下以高方以收云
○天和二年十月廿日醫師行有云九勤化○
同二年十月廿日法眼○同月廿七日加
坊百儀院合二百儀成○之後二年十月

坊百儀院合二百儀成○之後二年十月
院新

集

道有

寛永二年十二月廿七日家信○正徳二年
月十二日北前系淡東坊南系桃林寺新

集

道有

是

西德二年六月廿七日家信 ○享保七年九月
二日死 葬 山寺葬

東

道有 養行

実者 意原 養泉 重之次男

年月々々知 養子 ○享保七年十二月家

信 ○寛延元年七月廿二日 享保七年六月廿二日 同日
寺葬

東

道有

実者 意原 養泉 述 漢 次男

年月々々知 養子 ○寛延元年十月廿二日家

信 ○宝曆十二年四月十九日 享保七年六月廿二日 同日 寺葬

季林 シゲ

玄直

実者 池田 在 師 季隆 二男

年月々々知 養子 ○宝曆十二年十月廿二日家

信 ○享和七年七月廿九日 享保七年六月廿二日 同日 寺葬

常正

秀業 絶之序

実志在田秀和常依法男

年月之不知者子○昭和七年閏三月日家
徳○昭和七年三月七日徳長○寛政九年
六月廿五日卒七糸同寺葬

道寛

潤之 隆之 玄茂

実志在田秀和常依法男

年月之不知者子○昭和七年二月廿九日
家徳○寛政九年十月廿八日徳長

伝行

養氏 貞衣

実志在田宗安法眼依法男

年月之不知者子○寛政九年正月廿八日
家徳

走

常憲院殿御代

平田

校了

源姓

高野松俵

家茂 九ノ内角目
珠仙元

之祖名詳多合森内記是家分与名
平田清美福基男

勝右

三原集門

貞享元年八月廿五日
正三左衛門尉

己丑九月廿三日同寺奏

万三第

勝伴

明和元年十二月廿日奉書○同和元年七月廿日
少人經○安永六年○同和元年 仲夏未也
信之御流之格致也

万三第

勝英

寛政四年二月海邊遊覽後半人經○同和元年

十二月十日西丸勤行行有

平山

大猷院殿清成

平山

咲了

小野姓

高百儀之持持

家波 丸之内権系
葉橋

大藏冠孫足末葉平山六右衛門義通
男

義方

一海軍門

寛永十二年刻新親正佐右 石切七右儀
女持持○以下年刻西尾葉山源美

○寛文七年三月廿二日死年數不知切所
龜戸常光寺葬

義弘

一傳金門

寛文七年^初家信○同年^初西光^家
源慶○元禄二年^初家光^家○日守
三月^日家^自由^為同^月○日^年初^日
守^儀公^合百^儀人^持坊○宝永二年二月
廿九日死年數不知切所海蔵寺葬

義云

六傳金門

宝永二年二月廿九日家信○同年十二月
廿一日家光^家○日七年十月廿二日家光^家
○享保元年十二月七日家光^家○之後家
信入○享保二年十二月十日家信^家○宝曆
六年八月廿九日死年數不知切所海蔵寺葬

義健

清菴

寛保二年十月十二日家書 ○延享二年
 八月十日支那勅定 ○宝曆十年七月十七日
 見清用 ○同十一年二月九日
 秋六年三月廿六日勅定 ○安永五年
 凌之西在東國國之江市是左支延与方若
 測之即也 長藤身懸衣と美子取持の
 年来実事と存之即也 藤武能
 美子相遠方之腹中 美子取持の
 元紀 同年八月廿二日 同十年十月十

同方是北清光 ○同十二年十月海方
 結拾取 ○同七年二月廿五日死七拾八歳同寺
 葬

寛里

寛里 寛里 寛里
 寛里 寛里 寛里
 安永七年十二月廿五日 寛里 寛里
 六月十日 寛里 寛里
 同年十月廿一日 寛里 寛里
 同年十月廿一日 寛里 寛里

